

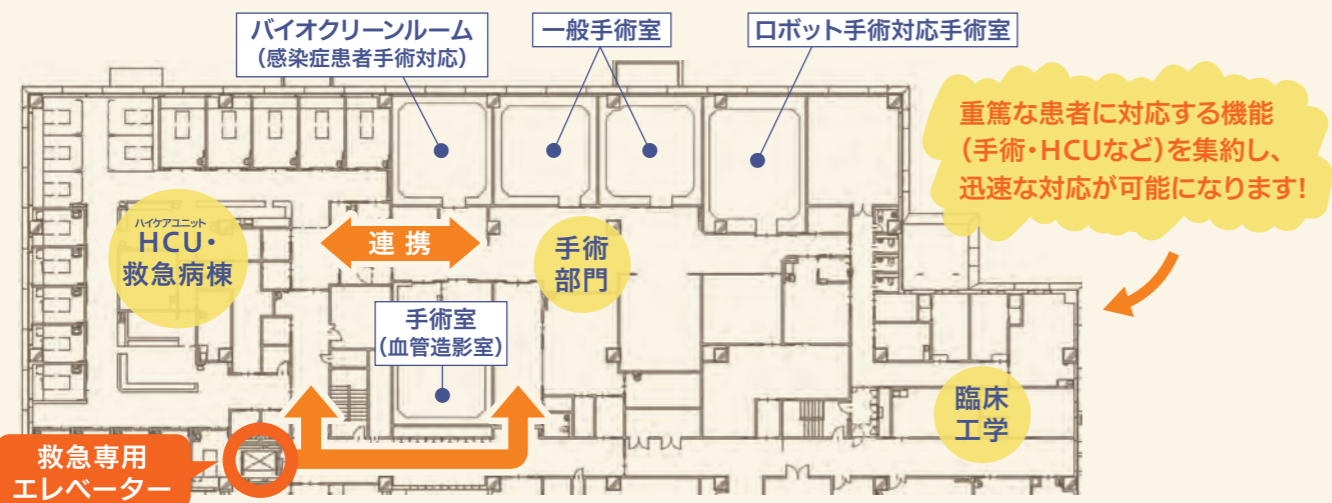
高度医療

● 緊急の手術などに対応しやすい 患者搬送に配慮した部門配置

重症患者の手術などを速やかに開始し、手術後に入院治療などのケアが円滑に行えるよう、HCU(集中治療室)と救急病棟を手術室に隣接。救急外来・ヘリポート・高度医療部門を救急専用エレベーターで直結させ、移動距離が短く、迅速な対応が可能に。

● 専門的な治療ができる手術室

手術室は一般の手術室のほか、ロボット手術にも対応できる大型の手術室や、他の手術室よりも空気清浄度が高いバイオクリーンルーム、カテーテル治療が行える手術室を配置しています。特に、バイオクリーンルームは空調機器で陰陽圧を切替えて空気の流れをコントロールすることで、新型コロナウイルスなどの感染症によって手術などを中止・延期することなく治療を継続できます。



有明医療センターの特徴!

救急

● 急性期病院としての患者搬送機能の向上

ヘリポートと救急外来・手術室・ハイケアユニット(集中治療室)が連結しているので短時間で移動でき、救命率アップに貢献します。容態により当院での対応が困難な場合、ドクターヘリでの搬送で三次医療を担う大学病院などと連携し、1秒でも早い救命に努めます。

● 救急を中心に効率化・迅速化する部門配置

一刻を争う大出血や心筋梗塞・脳卒中・腸管穿孔などの重症患者の診断・治療が短時間でできるように、救急外来に隣接して放射線診断部門(CT・MRI)・血管内治療室・内視鏡室を配置。すぐ上の階に手術室・ハイケアユニット(集中治療室)を配置し、これまで以上に地域住民の安心な暮らしを支えます。

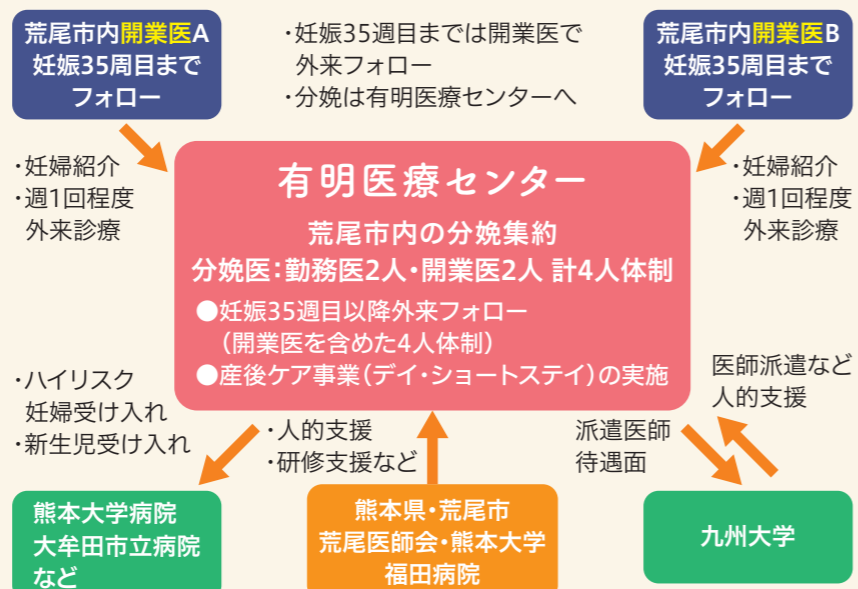


周産期医療

● 民間産院と連携し 有明医療センターに 周産期医療を一本化

市が提唱するあらお未来プロジェクトの5つの柱のうち「切れ目のない充実した子育て環境を作る」「誰もがつながりを持ち、健康で生き生きとした暮らしを作る」を実現していくため、荒尾地域で持続可能な周産期医療体制を整備し、安心して子どもを産むことができる環境づくりに取り組んでいます。

荒尾市 周産期医療の連携のイメージ



災害

● 強い建物で災害時でも医療を提供

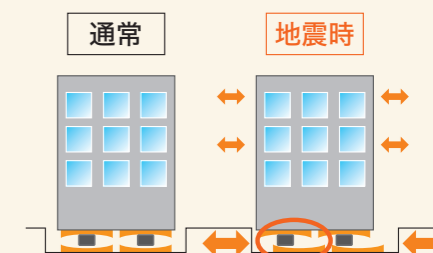
- 地震に強い基礎免震構造を採用
- 豪雨時に院内に浸水させない防潮扉を道路から2mの高さに配置

● 充実した設備

- 電気・ガスなどが途絶えても医療機能を継続可能(電気・給排水3日間運転可能)
- 浸水の恐れのない屋上に電気室や非常用自家発電機などを設置

● 支援活動をスムーズに

- 災害時は正面玄関前の大庇下を傷病者の症状の程度で振り分けるトリアージスペースとして活用し、講堂は災害時の院内災害対策本部として利用しやすいように外部(大庇)に面して配置
- DMAT(災害派遣医療チーム)の活動や大型のヘリが着陸できる障害物のない駐車場を整備



● 免震装置を導入! (球面すべり支承)

地震発生時、地面が大きく揺れても、免震装置が振り子のように移動することで、地震エネルギーを吸収しながら建物を元の位置に戻します。

地震で地面が大きく揺れても建物は小さな揺れで済むため医療行為が継続できます!